
残念！

フィロト・シプレ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

残念！

【Nコード】

N8703S

【作者名】

フィロト・シプレ

【あらすじ】

「ねえ、私と契約して魔法少年になってよ！」と残念なパクリをする羽ウサギ。

四つん這いの人間の後ろに怪獣が直立してるという残念なデザイ
ンの腕輪を罪もない少年にはめようとする羽ウサギ。

この羽ウサギはなぜこんな暴挙に出してしまったのか？
そして、暴挙の結果どうなったのか？

続きは作品で！

私の目の前で女神様が座っておられる。森林の日だまりで動物たちと戯れてる女性、と言えば聞こえが良いけど。

よく見てみるといろいろと残念なのよね。

まず日だまりにパソコンを持ってきてゲームされている。さわやかな空間にてピンポイントに暗い場所、そこが女神様の席。

人間に見れば金髪碧眼、アングロサクソンの美女。しかし現在500時間ぶっ通しでゲームされてる。しかも宇宙の管理者なので0が100個付くぐらいのアカウントを同時起動。

女神様の怠惰さを見ていると悲しくなってくる。きっと女神様にとって宇宙の運営はゲーム感覚なのだ。

このゲームへの情熱と仕事への怠惰さを見て私はいつも哲学的な気持ちになる。

なぜ、この女神様に管理されてる宇宙がここまで発展するのだろうか？

なぜ、女神様はよそとコミュニケーションをとらないのだろうか？
なぜ、女神様は動物をいっぱい集めてるのにアニマルセラピーを
されないのだろうか？

なぜ、わたしは羽の生えた角ウサギなのだろうか？

なぜ、わたしがいろいろかんがえると論点から覆っていくのだろうか？

私もコンピュータを起動させて今日の案件ファイルを確認する。
それにしても面白いから、と言う理由で人間の少年に銀河をも破壊
できるであろう素質を持たせてる。

隣の世界でそういう魔力を持った生命体達が宇宙全部の星を壊
しちゃったじゃないですか！

その生命体達が自らの命を削って土地を作らないといけない時代
なんですよ！

こっちの世界でも同じ事が起こっちゃうんですよ！

ターゲットの少年は今のところ石ころも破壊できないけど、いつ覚醒するかわからないですよ！

ああ、なんて危ないことをされるのだろう。

女神様が危なっかしいのはいつものことだけど！

それでも止めなくてはダメよ、モフカ！

無理矢理女神様の膝に乗って、案件をゲームとの間に割り込ませる！

女神様が少し見た！

交渉できる！

「女神様！ この少年に魔力を持たせすぎです！」

「何言ってるのかしら、このウサギは」

だめだ、ぜんぜん相手にしてくれない。

案件とともにポイ捨てされた、いつも通りの反応ね。

ならいつも通り脅せば！

後ろ足で地面をこすって戦闘準備、いつもはこれで言うこと聞いてくれる！

「角で刺しますよ！」

「あーら、ウサギの肉って美味しいのよねー」

だめだ、女神様はこの少年が好きなんだろうか？

何でこんなに頑固なんだろう？

この状態で刺すと布団巻きにされちゃうからダメね。

目的すら話す気みたいで私がウサギであることを躲す素材として使ってる。

私の事なんて無視しておせんべいを食べ始めた。そしてゲーム再開。

なにかの拍子で少年のちからが暴走したら宇宙規模の災害になるかもしれない！

そうになったらもう遅いのよ！

この世界の住民で惑星なくても生きていけるのはごく少数！

知的生命体全体を一般的な岩石惑星にたとえると惑星消滅で生き
ていける種族は米粒ほど！

岩石惑星が米粒のこして消滅するほどの大惨事が想定できるの！
そうなる前に、私がなんとかする！

私しか居ないのよ！ モフカ！

まずは人間界望遠鏡にてターゲットを見る。

首から上は女性、他は男性。

つまりとてもかわいらしい美少年はなにかにおびえながら街を歩
いてる。

浅い見方をすれば悪い事しようとしてる、ってことになるけど。

この少年はものすごい対人恐怖。

恐怖で魔力を暴走させなければ良いけど。

恐怖状態って事は当然頭の中は被害妄想だらけ。

これを暴走させてはいけないわ。

しかも下手な干渉は女神様を敵に回す。

それは最も最悪な事態、恐怖を和らげてあげないと。カウンセリ
ングするならしっかり調べないとね。

データベースによると名前は天王晴彦、天涯孤独の身でお化けが
大量に寄ってくる魔力を持つ。強い魔力故口径人が面倒を見てる。

晴彦と仲の良い個体は知らぬ間に精神面と能力面が成長するとい
うすごいオプシヨン付き。成長すればいろんなことできるし、お金
持ちになるのも楽になるよね！

頭の悪い人間達は女神様ではなく晴彦を神さまと考えるでしょう。
でも、精神面の成長はすごく大切なこと、お化けも立派な住民！
成長させる能力やお化けにもてるオーラはのこしてあげたいわね。
消したいのは破壊する魔力、と言っても頭ごなしに破壊しちゃつ
たら余波で銀河消滅の危機。

実際に起こったら女神様がウサギにとって毒物であるニンニク料
理を用意されることは確実、他の手段よ！

なら、どうする？

消せないのなら誘導してしまえば良い。

宇宙の治安を維持する方向に誘導するのよ、これが最適！

つまり、操るの。

「あら、黒モフカ誕生」

「何言ってるんですか女神様！ あなたが仕事しないからでしょ！」

「ウサギは臆病なのね」

うう、なんで女神様はそんなお気楽なんですか！

前足見てみたら黒く変色してた。

私って悪いこと考えると毛が黒くなっちゃうのよね。普段はピンクの毛をしたキュートな羽ウサギなのに。

でも、晴彦の能力を操るには拘束具が必要よね。

鎖とか鉛のアンクレットは女神様にばれてしまう。

拘束されてるといふ感覚を与えてはいけない。

拘束されていない感覚、しかも高いエネルギーを押さえつける拘束具なんてそう簡単に作れないわ。

拘束ではなく本人を教育？

教育と言ってもどうする？

いきなりウサギが「あんたを教育してあげるわ！」なんて言われなくても無視されるだけ。運がよくてもニンジン止まりでしょうね。

まずは偵察！

望遠鏡に手がかりないかしら？

あ、晴彦がアニメショップの前で止まった。

人間界で流行ってるアニメね、ネコ型生物が少女にむかって悪徳商法よろしく勧誘するアニメ。って聞いている。

そしてモニタに映ってるネコ型生物が、

「ねえ、僕と契約して魔法少女になってよ」
と言ってる。

そのアニメを食い入るように見つめてる晴彦。
晴彦君はずいぶん好きみたい、うふふふ。

ふふふ、かなりオタクね。

よしよし、オタクなら中二的な感じで行けるはず！

勝った！ 勝ったわ！

これで銀河の危機が救える！

「ふふ、ふふふふ。これね！」

「私、ピンクが好きなんだけど？」

「ひいっ！」

女神様が煙草持ってこっちに向かってきてる。

ウサギに根性焼きなんて虐待ですよ！

そんなの許されるのは度胸試しやろうって言うやんちゃな、しかも同意した人たちだけですよ！

女神様がすごいお怒りだ、まずい！

どうしよう！ とりあえず押さえないければ！

良いこと、良いこと考えなければ！

「モフカ、1年待ちなさい。そうすれば私のかんがえてることがわかるわ」

「神さま時間でかんがえないでください！ 私はウサギです」

やば、思わず言っちゃった。

この状態の女神様にキレちゃった。

だめ、私は殺される。

誰が任命されるかわからないけど後任者へ、先輩は女神様を理解しきれませんでした。

あなたはしっかり女神様を理解するのですよ。

あれ、背中に手が乗ってなでられてる。ちょっと冷たい手で、女神様の手でなでられてる？

「ふーん、そう」

わたし、助かったの？

女神様のお顔を見たら優しい笑顔、女神様という単語がふさわしい笑顔。

ああ、女神様。愚かなモフカをお許してください。

しかもの前に腕輪を置かれた。

これは、もしや変身グッズ！

怪獣プラスαが書かれたこの腕輪、かなりレアアイテムっぽい！

しかも魔力計に反応あり！

魔法の変身グッズね！

女神様、私の気持ちをわかっていただけたんだ。

嬉しくて涙が出てきた、でも女神様はてきぱきとゲームに戻られる。きつと深い考えで行動されている！

もうこの件で女神様に干渉しない！

お辞儀をしてリングに触れてみる。

中には説明書デバイスという親切オプション！ もちろん読むと

魔法少年養成グッズって書いてある。

魔法少年か、ちょっとかんがえる。

さっきのアニメと合体させてかんがえてみる。

戦闘については晴彦の素質に太刀打ちできる者は米粒を恒星サイズに拡大させたとしても砂粒ぐらいの割合よ。

計算上はそれだけど居ないに等しいレベル。

その場限りの話術で乗せればすべてうまくいく！

「ねえ、私と契約して魔法少年になってよ！」

このキャッチフレーズでいこう！

よし！

コンピュータに転送座標を入力！

転送魔法機動！

いざゆかん！ アニメ見てる晴彦の側へ！

「あのー、僕が魔法少年ってなんだか残念では？」

晴彦少年にあっけなく断られた。

かわいらしい笑顔がものすごく困ってる。

なんで！ 魔法少女はよくて魔法少年はダメなの！？

まさか女装癖！？

女の子のようにかわいいから女装は似合うと思うけど！

でも断らせない！ 絶対に！

「僕、身長176センチなんだけど。大人サイズだよ、少年は無理だよ」

「へぎゅー！ そんなことありません！」

しまったー、晴彦少年は現在18歳。

お酒も飲める年齢だし、なにより大人に見られたい年頃じゃない！
身体の細さは女性並みだけど、身長は確かに大人サイズ。大人って宣言されたら納得して上げなければならないサイズ。

モフカのバカ！ 何へましてるのよ！

晴彦は私を持ち上げて微笑んでる。

今のところ力がなさそうなので浮遊魔法による補助は欠かさないけど。

「大丈夫？ 身体の具合でも悪い？」

たしかに頭の回転させすぎで頭いたい。

「そんなこと言ってる場合じゃないの」

そう、そんなこと言ってる場合じゃないの。

あなたが力を暴走させれば銀河が一瞬で蒸発する。

それを防ぐためには何が何でも。

そうだ、この国って少し煽れば戦争起こせるわよね。

隣国の人間達には悪いけど銀河のためよ！

そっくりそのまま言っても信じてくれないのは自明の理。すこし問題を身近にする。

「あのね、実は隣国の悪い人々が戦争を起こそうとしてるの。あなたにはそれを止めてほしくて」

「で、魔法少年になって暗殺？ むりむり！ 僕喧嘩すら出来ないのに！」

うわ、なんで！

あなたの力を持ってすればこの星ぐらい簡単でしょ！

ちよっと呼吸が乱れちゃった、深呼吸深呼吸。

「すー、はー」

「ごめんね、期待に添えなくて」

ウサギにむける優しい笑顔は人格者かもしれない。

ま、対人恐怖の時点で喧嘩は厳しいよね。

でも！ あなたの力は国なんてレベルじゃない！

「大丈夫です、魔法少年になると魔力だけでなく度胸も付与されます」

「へー、ってなんだか黒ずんでない？」

うわ、嘘とか悪いことかながえると身体が黒くなると忘れてた！

いけない！ でも魔法少年にしてしまえばこっちのモノよ！

さいわい笑顔はそのまま、まだ交渉はできる！

私だって女神様の秘書！ ごまかすのは簡単！

「晴彦君に魔力渡す準備してるのよ。あなたががんばらないと戦争が起こるの！ 大勢死んじゃうのよ！ お願い！」

「うーうーん」

悩んでるけど隙だらけね。

無理矢理くつつけてしまえば！

今の晴彦なら私でも押さえつけられる！

女神様の作られた道具なら高い信頼性のはずよ！

よし、ちよつと強引にやる！

私の全身はかつてないほど黒光りした。

「晴彦君、試しにこの腕輪はめてみて」

「うわ、空中に腕輪があらわれた！」

女神様の用意してくれた腕輪、これをはめればもう思うがままよ！

ふふ、ふふふふふ！

でも晴彦の顔が引きつってる、なんで？

そう、戦いがいやなのね！

「このデザインはちよつと……」

あれ？ デザイン？

でもこの子なら強く押せばやってくれる！

大丈夫よ！

ウサギだから人間みたいな笑顔になれない、おもいっきり清純そうな声で！

思いを伝えるのよ！ モフカ！

「そんなこと言わないで！ 戦争なのよ！ 拒否しても兵役で弾丸の中に押し飛ばされるのよ！」

とは言ってみたもののひどいデザインね。

子供の落書き怪物が萌え系美少女に馬乗り状態。何でこんなひどいデザインをかんがえられるのかしら。

モフカのバカー！ なんでさっきしっかり確認しなかったのよ！これは女神様が「恥かきたくなかったらやめなさい」とやんわりおっしゃったのでは？

ちよつと罪悪感、ウサギだから表情には出てないはず。

私がピンクに戻って、晴彦君は涙目になってる。

ごめんなさい、デザインまでよく見てなかった。

「うう、どうせ僕は……」

「そうよ！ だから！」

ごめんなさい！ ごめんなさいごめんなさい！

こんな仕打ちしないと銀河を守れないの！

埋め合わせががんばるから！

晴彦君はけなげに腕を出してくれた、私は魔法で腕輪を開く。

「晴彦君、ありがとう」

「うん……」

ものすごく暗い声は永遠のトラウマになるわね。

それでも宇宙の管理チームとして仕方ないの。

だから、はめた。

ロックされたのを確認。

これでよし、って？

「あの一、光ってるけど」

「ええ！？ 早速変身！？ まだ変身ワード言ってないわよ！」

しかしなんか変ね。

普通変身するなら全身が光る。

でも今は腕輪だけが光ってる。

熱い。

光に包まれてると言うより爆発を感じてる気分。

しかもドンと書きたくなるような音がしてる。

どうということ？

「爆発したけど、どうしたの？」

「ひっ！　ちがうの！　これは！」

あれ？　あれあれ？　いったい何があったの？

ちよっとー！

あれ？　女神様から通信？　緊急通信！？

「モフカ、いい加減にしないと毛皮にするわよ」

「ええ！？　その声は！」

爆発地点に晴彦君は居ない。

その代わりに金髪碧眼の美女がいらっしやる。とても見慣れた顔のおねえさん。

もしかして、女神様が晴彦君のふりをしていた！？

あわわわ、女神様になんて事を！

女神様に拘束具を付けようとして、しかも爆発させちゃった！

これじゃ反乱じゃない！

「ごめんなさい、女神さま！」

「神は最後の最後まで干渉しない、それが大切よ」

女神様は優しく微笑まれた。

そのほほえみで抵抗する意志を失った私。

私の負けです、女神様。

私たちはオフィスである日だまりに戻っていった。

あれから私は罰ゲームとしてタマネギのスープを食べさせられた。タマネギはウサギにとって毒物、私たち羽ウサギの場合しばらく

風邪引いたみたいになる。

続いての1週間休職命令は入院状態だった。

後々聞いてみると晴彦君は他の銀河破壊できる魔術師に引き取られて愛情持って育てられてるとのこと。

そして、その魔術師は女神様のご友人。

私が焦らなくても宇宙は正常に稼働しています！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8703s/>

残念！

2011年4月30日20時25分発行